

7月7日、第6回口頭弁論傍聴・入廷行動・報告会に参加を

障がいがある人たちの「駅員さんを減らさないで」という願いから出発したJR駅の無人化に反対する裁判は、駅無人化のさらなる拡大、販売窓口の廃止、そして時間短縮等によって、地域の人たち、そして自治体全体の問題になっています。7月7日に行われる第6回口頭弁論は、今後の進行を左右する重要な場になります。「みんなのためのJR」を実現するためにあなたの力が必要です。ぜひご参加下さい。

私たちの声を聞いて！（3月5日・無人化に反対する市民集会で）

障がい者や高齢者などの交通弱者が公共交通機関を安心して利用するためにはやはり人の支えが不可欠。

JRが大好きでほんとはよく利用するが、帰ったときに『よかった。私は今日も無事だった』と思う。駅員さんがいてもそうなのになくなったたらどうなるでしょう。（視覚障がい）

JR九州は駅のトイレを廃止、券売機を撤去、乗降の安全確認もなくなるなど徹底した合理化を進めている。社員でもこわいくらいです。

このままでは障がい者や住民の不安や反対の声を無視して駅の無人化がさらに進む。みんなの力で駅を守ろう。

地域として意見を聞かせてもらおうとしたが、JRさんは我々の前に出てこない。



駅員さんの存在は私達視覚障がい者の命をつなぐ、掛け替えのない存在です。

3877億円もの税金を受け取りながら駅無人化・窓口廃止 自治体負担増の一方で株主には140億円の配当

地域軽視のJR九州！

JR九州が3877億円もの基金を国から受け取ったのは公共交通を維持するためです。それにもかかわらず、鉄道部門の赤字を強調して駅の無人化や窓口の廃止・時間短縮を進め、自治体の負担を増やしています。一方、株主には毎年140億円の配当を行い、コロナ禍による赤字が生じても同額の配当を続けていることがわかりました。地域の交通を守るためには、企業利益優先に傾くJR九州のあり方を常にチェックする必要があります。大分地方裁判所で行われているJR駅無人化反対訴訟の役割はますます大きくなっています。

駅無人化と自治体への負担増に歯止めを

2022(令和4)年7月7日（木）大分地方裁判所 第6回口頭弁論

予定時間 13時20分 大分地裁前集合 13時30分 入廷行動 14時30分 口頭弁論(傍聴)

口頭弁論終了後に報告会を行います。（傍聴は抽選になる可能性があります。）

みんなのためのJRに！ JR駅無人化反対訴訟を支援する会

連絡先 大分市都町2丁目7-4-303(在宅障害者支援ネットワーク気付)

電話 097-513-2313 FAX 097-529-7212 メール info@daremoga-oita.net